

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
音楽 I	芸術
履修学科	普通科・総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	MOUSA 1
副教材	MUSIC NOTE(九州高等学校音楽教育研究会) 高校生の歌集 つどい(同上)

科目の指導目標
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

学期	月	単元名【分野】	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1学期	4	オリエンテーション 校歌を歌おう【歌唱】 日本歌曲を歌おう【歌唱】	音楽 I の学習内容、評価方法、授業の受け方を理解する。そして、校歌の歌詞に込められた思いを読み解き、豊かな響きの声で歌う【SDGs14:海の豊かさを守ろう】【SDGs15:陸の豊かさを守ろう】。また、「この道」などの日本歌曲の詞の情景を味わい、表現を工夫して歌う。	○	○	○
	5	ドイツ歌曲を歌おう【歌唱】 オペラの世界へようこそ【鑑賞】	「野ばら」の詞の内容を理解し、シューベルト、ヴェルナーがそれぞれ作曲した音楽の違いを味わいながら、発音などの表現を工夫して歌う。また、ジグシュピールである歌劇「魔笛」を鑑賞する。	○	○	○
	6	キーボード演奏にチャレンジ①【器楽】(コード理論・簡易な伴奏付け)	コードネームについて学習し、和音の仕組みを理解する。また、基本的なキーボードハーモニーを押さえ、簡易な伴奏付けをする技術を身につける。	○		○
	期末考査			考査はありません。		
	7	クラシックギターを奏でる【器楽】	クラシックギターの基本的な奏法(アポヤンドとアルアイレなど)を理解し、旋律及び伴奏(分散コードやアルペジオなど)の奏法を習得する。	○		○
2学期	8 9	ギターでアンサンブルしよう【器楽】	クラシックギターで旋律と伴奏のパートに分かれ、周りの音を聴き合いながら、アンサンブルする。		○	○
	10	世界の楽器(世界の諸民族)【鑑賞】 ヴァイオリン演奏にチャレンジ【器楽】(旋律演奏)	世界の諸民族の楽器について学び、我々が馴染みのある楽器と比較して、民族楽器の特徴を学習する【SDGs10:人や国の不平等をなくそう】。また、ヴァイオリンを使って、旋律を演奏する技術を習得する。	○	○	○
	11	BGMの世界へようこそ【鑑賞・創作】	身の回りのBGMがどのような役割を担っているか学び、BGMの効果について学習する。そして、昔話にふさわしいBGMを選曲して、互いの読み聞かせを味わう。	○	○	○
	期末考査			考査はありません。		
	12	三味線演奏の基礎【器楽】※郷土音楽	三味線の歴史や部位の名称(サワリなど)、また基本的な奏法について学び、簡易な楽曲を演奏する。	○		○
3学期	1	ソルフェージュの世界【歌唱・楽典】 合唱にチャレンジ①【歌唱】	コールユーブンゲン教材とし、音程感覚を身につける学習活動に取り組む。また、二部合唱(同声または混声)に取り組み、周りの声やピアノに合わせて歌う。	○	○	○
	2	合唱にチャレンジ②【歌唱】 世界の声(世界の諸民族)【鑑賞】	混声三部合唱に取り組み、各パートの役割を理解しながら、周りの音に合わせて歌う。また、世界の諸民族の歌唱について学び、我々が馴染みのある歌と比較して、民族の歌の特徴を学習する【SDGs10:人や国の不平等をなくそう】。	○	○	○
	学年末考査			考査はありません。		
	3	パートの役割を理解してアンサンブルしよう【総合的表現】 まとめ	声または楽器による楽曲を選択し、それぞれのパートの役割を理解し、表現を工夫して演奏する。また、1年間のまとめを行う。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する。・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none">・ 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	<ul style="list-style-type: none">・ 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもつ。・ 感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を大切にする。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

音楽の授業では歌唱、器楽、鑑賞、創作の4つの分野を学習していきます。これらの授業で必要になるのは、教科書、筆記用具、授業に参加する積極的な意欲です。授業を受ける態度は平常点に大きく左右されるので、無断遅刻、無断欠課、授業中の居眠り等がないよう、前向きに取り組ましましょう。

また入学時の芸術科目選択時に自分で選んだのですから、1年間しっかりと授業に参加し、偉大な芸術家たちが残した、崇高な精神に少しでも触れられるよう頑張ってください。

音楽の授業の成績の算出は、授業の出席状況、参加時の①主体的に学習に取り組む態度と、楽器演奏などの実技を学ぶ際の②知識・技能③思考・判断・表現と、また授業内で実施する筆記テストおよびワークシートの提出状況を総合的に判断して行っていきます。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
音楽Ⅱ	芸術
履修学科	普通科・総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	MOUSA 2
副教材	MUSIC NOTE(九州高等学校音楽教育研究会) 高校生の歌集 つどい(同上)

科目の指導目標
音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。
(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1学期	4	オリエンテーション 校歌を歌おう【歌唱】 リズムアンサンブルにチャレンジ【器楽】	音楽Ⅱの学習内容、評価方法、授業の受け方を理解する。そして、校歌の歌詞に込められた思いを読み解き、豊かな響きの声で歌う【SDGs14:海の豊かさを守ろう】【SDGs15:陸の豊かさを守ろう】。また、声や体を使ったアンサンブルに取り組み、拍の流れを理解する。	○	○	○
	5	英語の歌を歌おう【歌唱】 ミュージカルの世界へようこそ【鑑賞】	英語による歌の詞の内容を理解し、強弱などの表現を工夫して歌う。また、ミュージカルを鑑賞し、舞台芸術の表現の特徴について学習する【SDGs16:平和と公平をすべての人に】。	○	○	○
	6	四季の歌を歌おう【歌唱(指揮)】 キャッチフレーズを作ろう 【鑑賞・創作】	様々な四季の歌を、情景を思い浮かべながら歌い、そしてそのイメージを歌い手から引き出す指揮について考える。また、CM等で使用される短く旋律的なキャッチフレーズについて学習し、それを参考にしながらオリジナルのキャッチフレーズを創作する【SDGs9:産業と技術革新の基盤をつくろう】。	○	○	○
	期末考査			考査はありません。		
	7	ギターを奏でる【器楽】	ギターの様々なコードの種類を学び、ストロークによるコード演奏の技術を習得する。	○		○
2学期	8 9	ヴァイオリンの演奏にチャレンジ【器楽・歌唱】	ヴァイオリンの基層的な奏法を習得し、レパートリーを増やし、アンサンブルに挑戦する。		○	○
	10	イタリア歌曲を歌おう【歌唱】 オペラの世界へようこそ【鑑賞】	イタリア語による歌の詞の内容を理解し、それぞれのが曲の音楽の違いを味わいながら、発音などの表現を工夫して歌う。また、イタリア語の歌劇「椿姫」を鑑賞する。	○	○	○
	11	日本歌曲を歌おう【歌唱】 日本の音楽【鑑賞】※郷土音楽	「からたちの花」などの日本歌曲の詞の情景を味わい、表現を工夫して歌う。また雅楽、声明、箏曲、能、歌舞伎、平曲といった日本の伝統音楽を鑑賞し、それぞれの特徴を理解する。	○	○	○
	期末考査			考査はありません。		
	12	三味線演奏の基礎【器楽】※郷土音楽	三味線の歴史や部位の名称(サフリなど)、また基本的な奏法について学び、簡易な楽曲を演奏する。	○		○
3学期	1	合唱にチャレンジ①【歌唱】 世界の声と楽器(世界の諸民族)【鑑賞】	混声三部合唱に取り組み、各パートの役割を理解しながら、周りの音に合わせて歌う。また、世界の諸民族の歌と楽器について学び、我々が馴染みのある音楽と比較して、民族音楽の特徴を学習する【SDGs10:人や国の不平等をなくそう】。	○	○	○
	2	合唱にチャレンジ②【歌唱】 歌の形式について学ぼう【楽典】	混声三部合唱の演奏をさらに深め、より豊かな表現を追求する。また、様々な歌を教材とし、歌の形式(歌唱曲やポップスなど)について理解する。	○	○	○
	学年末考査			考査はありません。		
	3	歌作りにチャレンジ【総合的表現】 まとめ	歌作りの手法について学び、形式を活かしながら、オリジナルの歌を創作する。また、1年間のまとめを行う。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもつ ・ 感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を大切にす

担当者から(授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた)

音楽の授業では歌唱、器楽、鑑賞、創作の4つの分野を学習していきます。これらの授業で必要になるのは、教科書、筆記用具、授業に参加する積極的な意欲です。授業を受ける態度は平常点に大きく左右されるので、無断遅刻、無断欠課、授業中の居眠り等がないよう、前向きに取り組みましょう。

また入学時の芸術科目選択時に自分で選んだのですから、1年間しっかりと授業に参加し、偉大な芸術家たちが残した、崇高な精神に少しでも触れられるよう頑張ってください。

音楽の授業の成績の算出は、授業の出席状況、参加時の①主体的に学習に取り組む態度と、楽器演奏などの実技を学ぶ際の②知識・技能③思考・判断・表現と、また授業内で実施する筆記テストおよびワークシートの提出状況を総合的に判断して行っていきます。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
演奏研究	芸術
履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	なし
副教材	なし

科目目標
音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。
(2) 音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。
(3) 音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1 学期	4	オリエンテーション 楽典の基本を学ぼう ピアノの基本を学ぼう①	演奏研究の学習内容、評価方法、授業の受け方を理解する。また楽典の基礎について確認する。そして、ハノンピアノ教則本を教材とし、ピアノ演奏に必要な手の筋力をトレーニングする。	○ ○		○ ○ ○
	5	ピアノの基本を学ぼう②	ハノンピアノ教則本の片手から両手の練習、また様々な練習曲やリズム変えに取り組み、ピアノを弾くための基本的な技術を修得する。	○		○
	6	パートの役割について知ろう	メロディ、ハーモニー、ベース、リズムの役割を理解する。またコードネームからハーモニー、ベースを設定する技術を習得する。	○	○	○
	期末考査		考査はありません。	/	/	/
	7	ギターの基本を学ぼう	ギターで旋律や伴奏(ストローク、アルペジオ)を演奏する方法を習得する。	○		○
2 学期	8 9	リコーダーの基本を学ぼう	様々なリコーダーの種類を理解し、息づかい、サミング、運指などの奏法を習得する。	○		○
	10	打楽器の基本を学ぼう	ドラムセットや他の打楽器の種類や奏法を習得する。	○		○
	11	アンサンブルの基本を学ぼう	アンサンブルの定義や種類(主に重奏及び重唱)について理解し、初歩的なアンサンブルに取り組む。	○	○	○
	期末考査		考査はありません。	/	/	/
	12	アンサンブルにチャレンジ	アンサンブル曲の演奏に取り組む。	○	○	○
3 学期	1	アンサンブルにチャレンジ ※総合学科発表会にて演奏披露	アンサンブル曲の演奏に取り組む。また、ステージで演奏する際のマナーや注意点について理解する【SDGs4:質の高い教育をみんなに】。	○	○	○
	2	クラシック音楽における合奏・合唱 ①	クラシック音楽における器楽や声楽の役割を理解し、クラシック音楽の合奏及び合唱に取り組む。	○	○	○
	学年末考査		考査はありません。	/	/	/
	3	クラシック音楽における合奏・合唱 ②、まとめ	クラシック音楽の合奏及び合唱に取り組む。また、1年間のまとめを行う。	○	○	○ ○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する。 ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもつ。 ・ 感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を大切にする。

担当者から(授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた)

演奏研究の授業では実技を中心に、鑑賞や創作を取り入れながら学習していきます。これらの授業で必要になるのは、筆記用具、授業に参加する積極的な意欲です。授業を受ける態度は平常点に大きく左右されるので、無断遅刻、無断欠課、授業中の居眠り等がないよう、前向きに取り組みましょう。

また本科目は自分で選んだのですから、1年間しっかりと授業に参加し、偉大な芸術家たちが残した、崇高な精神に少しでも触れられるよう頑張ってください。

音楽の授業の成績の算出は、授業の出席状況、参加時の①主体的に学習に取り組む態度と、楽器演奏などの実技を学ぶ際の②知識・技能③思考・判断・表現と、また授業内で実施する筆記テストおよびワークシートの提出状況を総合的に判断して行っていきます。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
地域と芸術（音楽分野）	学校設定科目
履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	3単位
準教科書	芸術文化と地域づくり——アートで人とまちをしあわせに(九州大学出版会)
副教材	なし

科目目標
<p>「地域と芸術」に関する学習を通して、音楽的及び造形的な見方・考え方を働かせ、徳之島における生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 徳之島の文化的資源と芸術の関わりについて理解を深めるとともに、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 徳之島の芸術文化のよさや美しさを深く味わい、表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3) 生涯にわたり徳之島の芸術文化を愛好する思いをもち、「地域と芸術」の可能性を追求する態度を養う。</p>

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1 学期	4	オリエンテーション 島唄の特徴を分析しよう	地域と芸術の学習内容、評価方法、授業の受け方を理解する。また、徳之島の芸術音楽的素材として島唄があることを理解する。そして、他国及び他地域の民謡と比較し、徳之島民謡の特徴について理解を深める。【SDGs10:人や国の不平等をなくそう】	○	○	○
	5	いろんな民謡を歌おう 三線を演奏しよう	他国及び他地域の民謡及び徳之島の島唄の特徴を活かしながら、表現を工夫して歌う。また、三線の演奏法の基礎を学ぶ。	○ ○	○	○ ○
	6	島唄の弾き歌いにチャレンジ①	三線を弾きながら、比較的易しい徳之島の島唄を、基礎的な歌唱法を理解しながら歌う。	○		○
	期末考査		考査はありません。			
	7	島唄の弾き歌いにチャレンジ②	三線を弾きながら、比較的易しい徳之島の島唄を、表現を工夫しながら歌う。		○	○
2 学期	8 9	新しい島唄を作ってみよう①	島唄の特徴を整理して、新しい島唄を創作する。 ※詩は夏休みの宿題	○	○	○
	10	新しい島唄を作ってみよう②	創作した島唄を互いに演奏で披露し合い、創作の意図について意見交換する。	○	○	○
	11	アレンジって何だろう？ 島唄をアレンジして演奏しよう①	アレンジ(編曲)について学習する。また、徳之島の島唄から題材を選び、違うジャンルの音楽(クラシック、ジャズ、ロックなど)にアレンジし、演奏する。	○ ○	○ ○	○ ○
	期末考査		考査はありません。			
	12	島唄をアレンジして演奏しよう②	アレンジした島唄の演奏の質を高めるために、互いに意見交換をしながら練習を進める。	○	○	○
3 学期	1	島唄をアレンジして演奏しよう③ まとめ ※総合学科発表会にて演奏披露	ステージ発表に向けて、演奏のマナーやアンサンブルのコミュニケーションについて理解を深める。そして、アレンジした島唄を完成し、発表する。 【SDGs4:質の高い教育をみんなに】。 最後に、1年間のまとめを行う。	○	○	○ ○
	2					
	学年末考査		考査はありません。			
	3					

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳之島の文化的資源と芸術の関わりについて理解を深めるとともに、創造的に表現するための技能を身に付けている。	徳之島の芸術文化のよさや美しさを深く味わい、表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	生涯にわたり徳之島の芸術文化を愛好する思いをもち、「地域と芸術」の可能性を追求する態度を身に付けている。

担当者から(授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた)

「地域と芸術」(音楽分野)の授業では、地域文化に関する内容を中心として、表現や鑑賞の学習をしていきます。音楽分野では、伝統楽器を演奏することはもちろん、島唄を歌ったり、島唄をアレンジして様々な編成で演奏したりするなど、幅広い活動があります。得意な分野もあれば苦手な分野もあるかもしれませんが、積極的に一生懸命授業へ臨む姿勢を大切にしてください。

「地域と芸術」(音楽分野)の評価は、①「知識・技能」、②「思考・判断・表現」、そして③「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で総合的に行います。表現においても、鑑賞においても、「音楽を形作っている要素」を意識して、それが音楽にどのように作用しているかを意識して演奏したり、音楽を聴き取ったりすることが重要なポイントです。各要素が音楽の曲想にどのように影響しているのか、注意深く意識して活動に取り組むようにしましょう。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
美術 I	芸術

科目の指導目標
<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

履修学科	普通科・総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	日文 新・高校生の美術 1
副教材	なし

●…表現 ▲…鑑賞 ■…オリエンテーション ◆…資料

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点			
				(1)	(2)	(3)	
一学期 (美術概論・彫刻・工芸)	4	<ul style="list-style-type: none"> ■美術とは何か ●身近なものを描く ●人物を描く ◆鉛筆デッサン 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の目的、進め方、評価方法などについて知る。教科書を鑑賞する。(ワークシート) クロッキー、鉛筆デッサン 発想、構想の方法。色彩論。 				
	5	<ul style="list-style-type: none"> ■彫刻の魅力 ●抽象彫刻で表す 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻に対する基礎的な理解をし、作品の構想につなげ、アイデアを練る。 ロストワックス技法による作品の原型を制作する。 	○	○	○	
	6	▲作家研究	<ul style="list-style-type: none"> 石膏どり、焼成、鋳込みの段階を経て、金属へ置き換える。(キャストイング) 紙やすり～研磨剤で仕上げる。 東洋と西洋の作風を比較し、鑑賞する。 				
	期末考査			なし。状況により小テスト(美術史)を実施。	○		
	7	◆写真の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 写真の基礎について学び、撮影を行う。 				
二学期 (絵画・映像メディア表現)	8	<ul style="list-style-type: none"> ●私の見つけた風景 ◆美術史年表 ◆西洋の美術 	<ul style="list-style-type: none"> 7月～夏休みにかけて準備した写真をもとに主題を生成する。 参考となる絵画作品を鑑賞、分析し、構図や技法、作家のねらいなどを理解する。 				
	9	<ul style="list-style-type: none"> ◆さまざまな描画材料 ◆いろいろな絵の具 	<ul style="list-style-type: none"> 絵の具の種類や組成について理解する。 F6号キャンバスに油彩で描く。 	○	○	○	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ◆油絵を描く ▲視点と表し方 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の名称、正しい使い方、制作の手順を学習し、効果的な構図を理解する 彩色を進めつつ、質感を描き分け、完成を目指す。 額装を施す。 				
	11						
	期末考査			なし。状況により小テスト(美術史)を実施。	○		
12	<ul style="list-style-type: none"> ●アニメーションの手法 ◆アニメーションの基礎 	<ul style="list-style-type: none"> アニメーションの基礎、歴史について学び、与えられた条件の下、アニメーションの制作を行う。(構想、絵コンテ) 映像の歴史を学ぶ。 	○	○	○		

三学期 (デザイン)	1	<ul style="list-style-type: none"> ●デザインの世界 ●ポスターで伝える ◆近代デザイン史 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザインの考え方、定義を理解し、SDGSに関する作品を制作することで、技術を習得する。 ・ コンセプトをしっかりと考える。 ・ 色彩の持つ力、配色の基本について学ぶ。 ・ アイデアを展開し、取材を行う。 ・ ICT 機器を用いて行う ・ デザインの歴史と、テクノロジーの関連性について考察する。 	○	○	○	
	2						
	期末考査			なし。状況により小テスト(美術史)を実施。	○		
	3	<ul style="list-style-type: none"> ▲環境を彩る造形 ◆これからの私と美術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の学習を振り返り、美術の環境や今後の自分への繋がりを考える。 	○	○	○	

評価の観点 (1)「知識・技能」、(2)「思考・判断・表現」、(3)「主体的に学習に取り組む態度」

評価の視点 (生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか)		
(1)「知識・技能」	(2)「思考・判断・表現」	(3)「主体的に学習に取り組む態度」
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めることができたか。 意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができたか。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができたか。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組むことができたか。それぞれの課題への前向きな取り組み。授業態度。出欠状況等。

担当者から (授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた)
<p>「美術 I」の目標では、中学校美術科における学習を基礎にして、「美術 I」は何を学ぶ科目なのかということを示し、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすなどの造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを一層重視します。そのため、育成を目指す資質・能力を明確にし、生徒の発達の段階や特性を踏まえつつ、(1)「知識・技能」、(2)「思考力・判断力・表現力等」、(3)「主体的に学習に取り組む態度」の三つの柱で整理し、これらが実現できるよう「表現」及び「鑑賞」についての幅広い活動を展開し、美術を愛好する心情を育て、美術の諸能力を伸ばし、美術文化の理解を図ることをねらいとしています。</p> <p>「表現」は「絵画・彫刻」、「デザイン」、「映像メディア表現」の三つの分野から成り、「鑑賞」は主体的、積極的に作品などからよさや美しさを感じ取り、批評し合うなどして幅の広い見方を獲得するとともに、日本の美術の特質や、日本及び諸外国の美術文化についての理解を深めることを重視しています。鑑賞も創造活動の一環です。対象に対し能動的に接し、感性を豊かに働かせましょう。</p> <p>授業で使う道具は、教科書、筆記用具、スケッチブック、ワークシート、教材などです。刃物や塗料、薬品類など、扱いに注意を要する物もあります。安全には充分留意し、説明を良く聞くようにしてください。また、移動教室になりますので、早めの移動を心がけ、遅刻をしないようにしましょう。挨拶、準備、後片付けはとても大切です。出来ない者は減点の対象にもなります。</p> <p>評価は、(1)「知識・技能」、(2)「思考・判断・表現等」、(3)「主体的に学習に取り組む態度」の三つの柱から総合的に判断します。実技を伴いますので、作品点の割合が多くなりますが、出席状況や授業態度はもちろん、ワークシートの記入状況も加味しながら、成績を算出します。</p> <p>皆さんが美術を選択し、共に学んでいけることを大変嬉しく思います。もしかしたら、高校三年間の中で一年間だけになるかもしれない、貴重な授業です。作品制作や鑑賞活動を通して、芸術文化の持つ普遍的な価値や素晴らしさ、新たなものをつくりだす楽しさを体験し、創造力や発想力を磨きましょう。美術に真剣に取り組めば、生涯にわたって役に立つ能力が身に付きます。頑張りましょう。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
美術Ⅱ	芸術

履修学科	普通科・総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	(日文 高校生の美術2)
副教材	

科目の指導目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

●…表現 ▲…鑑賞 ■…オリエンテーション ◆…資料

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				(1)	(2)	(3)
1 学期 (絵画)	4	■表現とは何か	・ 授業の目的、進め方、評価方法などについて知る。教科書を鑑賞する。			
	5	●線と明暗の表現	・ 静物画の歴史を学ぶ。			
		●ものの質感を生かして	・ 静物をデッサンし、構成を練る。	○	○	○
	6		・ 下地を作成する。 ・ 下描きを行う。 ・ 着彩(アクリラガッシュ)を行う。 ・ 仕上げる。			
	期末考査			なし。状況により小テスト(美術史)を実施。	○	
2 学期 (デザイン)	7	▲情報を伝えるデザイン	・ 教科書、ワークシートを用い、デザインについて理解を深める。			
		▲行為を誘うデザイン				
	▲庭園のデザイン	○		○	○	
2 学期 (デザイン)	8	▲感覚に訴えるデザイン				
	9	●デザインがもたらす統一感	・ 与えられたテーマ(徳之島)についての調査・取材を行う。 ・ テーマに関わる発想、構成を行う。			
10	▲コンピュータを活用した表現	・ ICT機器を用いてデザインを行い、データにて提出。その後、シールに置き換える。	○	○	○	
11						
期末考査			なし。状況により小テスト(美術史)を実施。	○		

三 学 期 （ 絵 画 ）	12	◆現代につながる美術 ◆日本の前衛	・ 現代美術や日本の前衛美術について学ぶ。	○	○	○
	1	●版の表現（ステンシル）	・ 版画について学ぶ	○	○	○
	2		・ テーマ（社会情勢）に関わる発想、構成を行う。 ・ テーマに沿った写真を撮影し、ICT機器で編集する。 ・ 台紙に印刷を行い、切る。 ・ 版を刷る。			
	学年末考査		なし。状況により小テスト（美術史）を実施。	○		
	3	▲作家探求	・ 作家について、調べてまとめる。 ・ 1年間の学習を振り返り、美術の環境や今後の自分への繋がりを考える。	○	○	○

評価の観点 (1)「知識・技能」、(2)「思考・判断・表現」、(3)「主体的に学習に取り組む態度」

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
(1)「知識・技能」	(2)「思考・判断・表現」	(3)「主体的に学習に取り組む態度」
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めることができたか。 意図に応じて 表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができたか。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や 美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができたか。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組むことができたか。それぞれの課題への前向きな取り組み。授業態度。出欠状況等。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>「美術Ⅱ」は、「美術Ⅰ」の学習を基礎にして、生徒の能力、適性、興味・関心などに応じた活動を展開し、美術の諸能力を伸ばすことをねらいとしています。「表現」及び「鑑賞」についての創造的な美術の諸活動を通して、自然や自己、社会などを深く見つけ表現する能力や、美術作品を多様な視点から分析したり、心豊かな生き方にかかわる美術の働きを理解したりするなどの鑑賞の能力を伸ばします。</p> <p>「表現」は「絵画・彫刻」、「デザイン」、「映像メディア表現」の三つの分野から成り、「鑑賞」は美的直感力や柔軟な思考力、判断力等を身に付けることを重視しています。</p> <p>授業で使う道具は、教科書、筆記用具、スケッチブック、ワークシート、教材などです。刃物や塗料、薬品類など、扱いに注意を要する物もあります。安全には充分留意し、説明を良く聞くようにしてください。また、移動教室になりますので、早めの移動を心がけ、遅刻をしないようにしましょう。挨拶、準備、後片付けはとても大切です。出来ない者は減点の対象にもなります。</p> <p>評価は、(1)「知識・技能」、(2)「思考・判断・表現」、(3)「主体的に学習に取り組む態度」の三つの柱から総合的に判断します。実技を伴いますので、作品点の割合が多くなりますが、出席状況や授業態度はもちろん、ワークシートの記入状況も加味しながら、成績を算出します。</p> <p>美術が心豊かな生き方を実現するために役立っていることに気付くとともに、よりよいものを生み出そうとする自覚を高め、美術の社会における役割、また、日本及び諸外国の美術文化についての理解を深めていくことが大切です。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
ビジュアルデザイン	芸術

科目の指導目標
<p>ビジュアルデザインに関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 視覚的な伝達効果について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3) ビジュアルデザインの可能性を追求する態度を養う。</p>

履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	なし
副教材	なし

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				(1)	(2)	(3)
1学期	4	○オリエンテーション	・ 年間を通じたビジュアルデザインの内容などを理解する。	○	○	○
	5	○シルクスクリーンによる作品制作	・ 版画技法について学ぶ。 ・ アイディアスケッチをする。 ・ イラスト作成アプリを用いて、デザインの制作を行う。 ・ 版を作成し刷る。	○	○	○
	6					
	期末考査		なし			
	7	○絵文字のデザイン	・ 身近な植物の名前から文字をデザインする。 ・ 色彩の基本について学ぶ。 ・ 下描きを行う。 ・ アクリアガッシュで彩色を行う。	○	○	○
2学期	8	○情報を伝えるデザイン	・ ピクトグラムの役割などについて理解する。 ・ 学校の特別教室などのピクトグラムを考える。 ・ ICT機器を用いて、作成する。			
	9					
	10					
11	期末考査	なし				
12	○修学旅行デザインレポート	・ 様々なお土産のパッケージの撮影を行い、レポートを作成する。	○	○	○	
3学期	1	○パッケージデザイン	・ パッケージデザインについて理解する。 ・ 商品のパッケージのデザインを考える。 ・ 3面図を作成し、彩色を行う。	○	○	○
	2					
	学年末考査		なし			
	3	○トリックアート	・ トリックアートの技法について学んだり、制作を行ったりする。	○	○	○

評価の観点 (1)「知識・技能」、(2)「思考・判断・表現」、(3)「主体的に学習に取り組む態度」

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

(1)「知識・技能」	(2)「思考・判断・表現」	(3)「主体的に学習に取り組む態度」
自分の考えた内容を、教材・教具を生かし表現できたか。造形の要素の働きや、全体のイメージや作風、様式などで捉えることの理解。	主題の生成や創造的な表現の構想ができてきているか。自然や生活の中から美しさを感じ取り、豊かな発想をし、表現を工夫しているか。	作品に対する考察・まとめを通して他者と意見を交わし、異なる価値観についての比較・考察をすることができたか。それぞれの課題への前向きな取り組み。授業態度。出欠状況等。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

この科目では、ビジュアルデザインに関する学習を通して、デザインの視覚的効果や伝達機能について理解を深め、生活や社会に生きて働く視覚伝達デザインの表現と鑑賞の能力を高めることをねらいとしています。

内容は、(1) デザインの基礎 (2) 平面・立体デザイン (3) 空間デザイン (4) 図法、表示法 (5) 鑑賞に分かれています。

授業で使う道具は、教科書、筆記用具、スケッチブック、ワークシート、教材などです。刃物や塗料、薬品類など、扱いに注意を要する物もあります。安全には充分留意し、説明を良く聞くようにしてください。また、移動教室になりますので、早めの移動を心がけ、遅刻をしないようにしましょう。挨拶、準備、後片付けはとても大切です。出来ない者は減点の対象にもなります。

評価は、「知識技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの観点から総合的に判断します。実技を伴いますので、作品点の割合が多くなりますが、出席状況や授業態度はもちろん、ワークシートの記入状況も加味しながら、成績を算出します。

授業を通して、デザインが社会の変化や人々の生活と密接な関係をもつ造形活動であることを理解できるようにになるとともに、絶えず新しい技術や動向に留意し芸術性を追求する態度を身に付けることが大切です。また、伝統行事や生活の中に見られる意匠にも目を向け、広い視野をもって学校生活に取り組むようにしましょう。きっと目にする全てのものが、より一層輝いて見えるはずです。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
地域と芸術（美術分野）	学校設定科目

履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	3単位
準教科書	芸術文化と地域づくり——アートで人とまちをしあわせに(九州大学出版会)
副教材	なし

科目の指導目標
<p>「地域と芸術」に関する学習を通して、音楽的及び造形的な見方・考え方を働かせ、徳之島における生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 徳之島の文化的資源と芸術の関わりについて理解を深めるとともに、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 徳之島の芸術文化のよさや美しさを深く味わい、表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3) 生涯にわたり徳之島の芸術文化を愛好する思いをもち、「地域と芸術」の可能性を追求する態度を養う。</p>

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				(1)	(2)	(3)
1学期	4	○オリエンテーション ○造形あそび	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じたビジュアルデザインの内容などを理解する。 遊びと、美術の関連を考える 	○	○	○
	5	○島草履を使った、デザイン	<ul style="list-style-type: none"> 徳之島の自然を、デザインする。 デザインした図案を、草履に転写 草履を加工する。 	○	○	○
	6					
	期末考査		なし		○	
	7	○テクスチュアの研究	<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材を使い、違う絵肌を作る研究をする。 抽象画について学ぶ。 	○	○	○
2学期	8	○テクスチュアアートの制作	<ul style="list-style-type: none"> 実験で生まれた絵肌を下地として扱う。 海岸で拾ってきた素材を絵の具などを使い、作品を完成させ、相互鑑賞を行う。 	○	○	○
	9					
	10					
	11					
	期末考査		なし		○	
12	○自然素材を生かした工芸品の制作 (ソテツ実を使った鈴の制作)	<ul style="list-style-type: none"> ソテツを採取して、加工する。 描く絵柄の構想を練る。 実に絵を描く 鈴、紐をつけて仕上げる。 	○	○	○	
3学期	1					
	2					
	学年末考査					
3						

評価の観点 (1)「知識・技能」、(2)「思考・判断・表現」、(3)「主体的に学習に取り組む態度」

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

(1)「知識・技能」	(2)「思考・判断・表現」	(3)「主体的に学習に取り組む態度」
徳之島の文化的資源と芸術の関わりについて理解を深めるとともに、創造的に表現するための技能を身に付けられたか。	徳之島の芸術文化のよさや美しさを深く味わい、表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を身に付けられたか。	生涯にわたり徳之島の芸術文化を愛好する思いをもち、「地域と芸術」の可能性を追求する態度を身につけられたか。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

この科目は、学校設定科目で、「地域」と「芸術」の関係性や関わり方について、作品制作を通して学びます。

内容は、(1) 徳之島の芸術文化について、(2) 徳之島に関わる題材を扱った作品制作、(3) 鑑賞を行います。授業で使う道具は、教科書、筆記用具、ワークシート、教材などです。刃物や塗料、薬品類など、扱いに注意を要する物もあるので、安全には充分留意しながら制作するようにしてください。また、準備から後片付けまで、しっかりと取り組むように心がけてください。

評価は、(1)「知識・技能」、(2)「思考・判断・表現」、(3)「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で総合的に判断します。実技を伴いますので、作品点の割合が多くなりますが、出席状況や授業態度はもちろん、ワークシートの記入状況も加味しながら、評価を行います。